１　本指導計画作成の基本方針と特徴

（１）　編集にあたって

　本指導計画は，仙台市小学校教育研究会社会科研究部会研究主題「よりよい社会について考え，関わろうとする子供の育成」に基づいて作成した。「よりよい社会」とは人々が相互に尊重し合い，社会の発展や生活の向上を目指して，協働して問題解決にあたる社会を意味している。新学習指導要領では問題解決的な学習の充実に向けて，「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいくことが重視されており，仙小社研としても授業改善の積み重ねによって，子供が見方・考え方を働かせ，社会的事象への理解を深めたり，主体的に問題を解決する力や社会に関わる態度を身に付けたりすることができると考え，本指導計画を作成した。

（２）　問題解決的な学習過程

　「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の四つの段階を設定している。「つかむ」段階では学習対象となる社会的な事象を基に，学習問題の設定に向けて「なぜ？」「どうして？」「どうなっているの？」等の予想や疑問を引き出し，学習問題を設定する。「調べる」段階は学習問題を基に，課題の解決に向けて調べる。仙小社研では１単位時間内に一つの問いと答え設定することを基本として指導計画を作成している。「まとめる」段階では学習を通して得た知識を関連付けたり，多角的に考えたりして，学習問題について考え答えをまとめる。「いかす」段階では獲得した社会認識を基に小単元の終末段階で，課題について選択・判断したり，多角的に考察したりする。

　また，各時間の問い（学習問題）とその答え（各時間で身に付けさせる事実・概念）を明記した。そうすることでその時間に身に付けさせるべき知識を明確にすることができ，各時間の「見通し・振り返り」にも対応することができる。知識の構造図とも関連させて表記することで必要な知識と，単元の目標である社会認識を構造的に捉えることができると考え設定している。

（３）　評価の方法と観点

　評価の観点は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点とした。指導計画の☆印の部分に評価計画として明記している。また，毎時間ごとに観点と内容を表記するようにして具体的で分かりやすくしている。

（４）　知識の構造図

　「知識の構造図」の利点は，「中心概念」と「具体的知識」，さらに獲得させたい「用語」が各時間とどのように関係しているのかが一目で分かることである。丸数字は指導計画内の時数と対応していて，各時間に身に付けさせたい知識や概念の関係を構造的に把握できる。また，各時間で獲得させたい「用語」の数を絞ることで最低限身に付けさせたい知識を明確にしている。